

笑顔で 前進するために

完全燃笑~輝かしい未来へ

さくら

第2号

令和2年 5月7日

休校が続いている間に、いつのまにか葉桜となつています。担任の先生と電話で話せた人もいますが、それなかなかだったり、メールで体育会中止の知らせを受け取ったりする中で不安を抱えている人も多いことでしょう。

学校がいつ再開されるのかもはっきりできない状況が続いていますが、3年生の学年目標が決まりました。「完全燃笑」輝かしい未来へ、笑顔で前進するために。柏屋東中へ入学して「一(笑)懸命」に取り組んできた1年生。中堅学年として「先手必笑」を掲げて頑張ってきた2年生。今年度は、その集大成です。リーダー学年としての力を発揮する機会、当面ありませんが、未来を切り拓く力を付けるための絶好の機会です。

この新型コロナウイルスによるパンデミックがなかったとしても、グローバル化や高度情報化が進んで先々の予測がつきにくい時代となつていきました。みなさんが何年後かに社会に出たとき、たった一つの正解というものはないので、今回のように想定外のことか起きたとき、いかに自分を成長させられるかが重要になってきます。今だからできること、時間があつたらやってみてみよ。学校から出さされた課題をこなすだけでなく、勉強する意

味を考えてみましょう。



数学って必要?

大学への数学、横戸宏紀編集長に聞く。数学は、英語や国語と違って、社会に出ても役に立たないと言われることがある。でも、社会に出ればいろいろな問題に直面する。ほとんどの問題は「解き方」もわからない。そこで必要なのは、「試行錯誤」しながら、論理的に考え、正解を探っていくという能力。国語や英語や社会科で、試行錯誤しながら正解にたどりつくことはあまりないと思うが、数学では常にそれが求められる。

問題を解決するには、一つの視点だけでなく、複数の視点から考える。一つの問題をさまざまな視点から考え、最適解(一番よいやり方)を探っていく。訓練として、数学は非常に有用だと思える。数学自体も汎用性が高い。(広くいろいろな用途に使える)今の社会で生きていくには、確率や統計の理解が不可欠となる。知識を問う問題は、知っているかいないかだけなので正解しても達成感はない。試行錯誤しながら考えているうちに、わかっていることが突然わかったり、こういう見方もできると気づいたりする。そのような体験は、受験だけでなく、生きていく上で貴重なものと思える。

〔2020年4月22日付朝日新聞専門誌に寄稿〕

数学の一番いい勉強法は、少し難しい問題を、解答を見ないでひたすら考え続けることだそう。もちろん、数学が大の苦手という人は、その前に正しいやり方を確かめたり計算力を磨いたりすることが必要なのではないか。

さて、3年生になったのと同じように、人は「受験生」になりました。受験生といえ、まずは復習からです。中学校3年間で、学習内容が一番難しいのは実は中2です。そこでつまずいた人は、中1の復習は小学生の内容に戻ってやり直してみてください。特に、数学と英語では「おっ、これは簡単だ」と思えるところまで戻ってみることをお勧めします。中1のときに難しいと感じていた内容でも、今見直してみると意外にできることもあります。

次に、予習です。もう、各教科の教科書を一通り見ましたか。わからなくて当たり前。雰囲気をつかみ、大まかな見直しをもつことはとても大事です。授業では、教科書を隅から隅まで読んでいくわけではありませんが、国語の教科書は、1ページ目から順に読んで、途中のくすしやうという指示通りに取り組んでいけば、授業をやっているのと同じことになります。

笑う門には福来たる。辛いときこそ笑顔でいましょう。離れているからこそつながれます。Never Waste a Good Crisis. (この危機を無駄にしてはいけません)

※今号は、2020年4月27日付朝日新聞の、昭和女子大理事長・総長 坂東眞理子さんのインタビュー記事を参考にしています。



料理に挑戦しよう!

4月29日(水)の^{にっかん}日刊^{しんぶん}スポーツ新聞にて、^{さくねん}昨年まで^{やきゅう、きょじん}プロ野球巨人で^{とうしゅ}投手コーチを務めていた^{つと}小谷正勝^{こたに ただかつし}氏が、^{しゅうちゅう}小中高の^{きゅうじ}球児たちへ「^{おうちトレ}おうちトレ」の^あヒントを^あ挙げていました。^{やきゅう}野球に限らず、^{いがい}どのスポーツでも、^{いがい}スポーツ以外の^{じょうご}習い事や^{しゅみ}趣味でも^{たうよう}応用がききそうな^{ないよう}内容でした。
以下、「^{やきゅう}野球」を自分の^{じょうご}興味のある^{ぶんぎ}分野におきかえて読んでみてください。

^{やきゅう}野球の^{ぎじゅつ}技術を^{たか}高める^{うえ}上で^{じゅうぶ}重要な「^{くわう}工夫する力」「^{ちから}想像する力」は、^{そと}外で^{からだ}体を^{うご}動かすことができる。特に、^{ていしゅ}投手は「^ああの部分から^まボールを^ま曲げて、^ああのポイントに^あ収める。そのために、この^{たいみんぐ}タイミングで、この^{ちから}強さで^まボールに^あ力を^あ与える」という^{くうかん}空間を^あ把握して、^{きどう}軌道を^{イメージ}イメージする^{のうりよく}能力が^あ欠かせない。そういう^{せんす}センス(微妙な^{かんかく}感覚)は^う生まれつきのもので、^{あきら}あきらめていては^{しんぽ}進歩がない。創意^{そくり}工夫と^{そくりよく}想像力を^あ鍛え、^{せんす}センスを^あ磨く^{どりよく}努力を^あすることだ。そのために^{ちやれんじ}チャレンジしてもらいたいのが^{りょうり}料理だ。

一つの^{しょくざい}食材で、^{よん}4回^{りょうり}料理を作ってみよう。ルールは、^{たれ}誰も^{くちだ}口出ししたり^{てつだ}手伝ったりしないこと。^{じょく}徐々に^{だんぱい}段階を^あ上げていきたい。

1. ^す好きなように ^{じぶん}自分で^{かんが}考えながら、^す好きなように^{つく}作っていく。^{はじ}初めてだという^{くろ}苦勞する^{あたま}だろう。あれこれ^{あたま}頭を^{めぐ}巡らせよう。
2. ^み見た目^めきれいに ^{かいめ}1回目^{はんしやう}の反省を生かしながら、^み見た目を^{きれいに}きれいにするには^{どう}どうするかを^{かんが}考える。
3. ^{おいしい}おいしく ^め見た目の^{つぎ}次は^{あじ}味。^{ちやうみりやう}調味料の^{ぶんりやう}分量や^や焼き^{あつ}具合を^{かんが}考えながら、^{つく}作り方を^{かんが}考えていく。
4. ^{おいしい}おいしく^め見た目も^{きれいに}きれいに ^{かいめ}3回目^{つみかさね}までの積み重ねを生かして、^{さいご}最後の^し仕上げを^あする。

^{あたま}頭で^{かんが}考え、^め目で^{たいばう}対象を^{とら}捉え、^{さいご}最後は^{ゆびさき}指先に^{しゅうちゅう}集中して、^{せんさい}繊細に^{かたち}イメージを^{かたち}形にしていく。
^{ちから}力任せで^{おも}思いっきり^な投げ^{せいりやう}けるフォームに^{せいりやう}成長して^あいく。^{とうきゅう}投球と^{りょうり}料理は^あ似ている。自分で考えることが何より大切で、センスを高める唯一絶対の条件である。

^そ添え物^{もの}も^{くわう}工夫 「添えもの」にも^{りょうり}こだわり^{ふか}料理を^{せんれん}深めれば、^{せんす}センスは^{さら}さらに^{せんれん}洗練される。^{いっぴき}1匹の^{いかな}魚が^{しゅ}主の^{しょくざい}食材だと^しする。^{さん}3枚におろして^{はんしん}半身を^さ刺し^み身、^{はんしん}半身を^{あたま}焼き物、^{あたま}頭と^{ほね}骨は^{にもの}煮物にする。それぞれに^{なに}何を^{かんが}添えるかを^{かんが}考えていくと^{むげん}無限の^{ひろ}広がりがある。^{りょうり}料理の^あ脇役は、^{しゅ}主役と^{どうとう}同等の^{ちから}力をもっている。

^{ていしゅ}投球も^ままったく^{おな}同じだ。自分の^{さいご}最も^{とくい}得意な^い球を生かすには、^{きゅうしゅ}どの^{しゅ}球種を使い、^{しゅ}初球から^{なん}どんな^{しんぴ}レシポで^あ組み立てて^いいくのか、^{しんぷ}勝負球から^{さか}逆算する。自分で^{かんが}考えて、^{イメージ}イメージを^あ高めて、^{かたち}形にして^いいく。この^{さいくる}サイクルを^{にちじふ}日常生活から^{しゅうかん}習慣と^しすることで、^{せんす}センスは^あ身に^あ付く。
^{しょくざい}食材は、^{かぎり}可能な^{かぎり}限り「旬」を^{えら}選^びたい。季節の^{もの}ものを^あ食べることが、^{からだ}体を作る^あ上では^{いちばん}一番^{いい}いい。作った^{りょうり}料理は^{みんな}みんなで^あ食べよう。^あ食べながら、^{いち}1日⁵分でも¹⁰分でも^{いい}いいから、^{かぞく}家族の前で^{ひとり}一人で^あ話してみよう。^{あたま}頭で^{かんが}考えて^あ組み立て、^{ことば}言葉で^あ表現する。^{スピーチ}スピーチも^{りょうり}料理や^{ていしゅ}投球との^{きょうつう}共通点がある。

